

# tokiwa

## tokiwa Contents



世界を  
彩れ。

### 1 特集 課外活動の支援

- 3 野球部
- 4 剣道部・吹奏楽団
- 5 サッカー部
- 6 ゴルフ部・学生支援センターより

### 学びのTOPIC

- 7 大 学 産学連携の商品開発
- 11 高 校 カナダ・サマーキャンプ
- 13 智学館 京都・奈良研修旅行
- 15 幼稚園 親子プログラム「まつの子ぐみ」
- 17 研究紹介
- 18 教員著書案内

#### 表紙イラストについて

#### 「孔雀と枝とつながりと」

孔雀は進化の過程でより鮮やかな羽根を身に付けていったと言われて  
います。今号の表紙は、そんな孔雀の羽根が美しく広がっていくさ  
まに、人と人、大学と地域のつながりといったイメージを重ねてみま  
した。木の枝は、今号の特集でお伝えした学生たちの課外活動の「広  
がり」や「進んでいく道」を表しています。まもなく新しい春がやっ  
てきます。学生たちの輪にもフレッシュな顔ぶれが加わるでしょう。そ  
んな活気のあるキャンパスの様子をイラストから感じていただけれ  
ばと思います。

illustrator 平野 こうじ

## 特集 課外活動の支援



UNIVERSITY  
ACCREDITED  
2010.4~2017.3

常盤大学は平成21年度  
大学評価の結果、(財)大  
学基準協会の大学基準  
に適合していると認定さ  
れました。



ACCREDITED  
2008

常盤短期大学は平成20  
年度(財)短期大学基準  
協会による第三者評価  
の結果、適格と認定され  
ました。



February 2013 vol. 20

発行日 2013年2月  
発行 学校法人常盤大学  
編集 広報課

〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1  
Tel.029-232-2511 (代)  
<http://www.tokiwa.ac.jp/>

特集..

# 課外活動の支援

大学生活を充実させる

もうひとつの学びの場があります。



学生の本分はもちろん学業ですが、課外活動もまた、学生の成長を促す大切な学びの場だと考えています。自由になる時間がたくさんある大学生活だからこそ、その自由を、自らを高めるために活用してほしいと願い、常磐大学では、野球部・剣道部・吹奏楽団・サッカー部・ゴルフ部を強化部に指定し、活動を支援しています。学生たちが打ち込む対象はスポーツや芸術などさまざまです。また、これまでの実績も部によって大きく異なります。しかし、学業との両立を図りながら、少しでも強く、あるいは高いレベルを目指そうと、学生たちは日々努力を続けています。その活動の様子や、今後の抱負をぜひご覧ください。

# Kendo 剣道部

剣道4段。得意技は「出ばな面」。練習してきた技が試合で決まったときが一番うれしい。インカレ出場に向け、まっすぐ正しく打つことを意識したい。  
 常磐大学 人間科学部現代社会学科3年  
 主将 伊師 若菜

剣道3段。得意技は「小手返し面」。背が低くても大きい人に勝てるところが剣道の魅力。速さを磨いて、仲間と勝ち進んでいきたい。  
 常磐大学 人間科学部教育学科3年  
 山口 美里

剣道2段。得意技は「面打ち」。2013年5月の関東女子学生剣道選手権大会に出場し、まず1勝をあげることが目標。  
 常磐大学 人間科学部現代社会学科1年  
 高田 美幸



剣道部 師範 阿部 昭彦氏  
 教士八段。2012年、全国教職員剣道大会に監督として茨城県を率い、団体第2位。個人戦で全国レベルの大会入賞多数。清真学園に所属。モットーは「師弟同行」。

## 指導者プロフィール

人間形成の過程としてインカレ出場を目指す。剣道部は現在部員7名が所属し、剣道の理念「剣道は剣の道の修練による人間形成の道である」を胸に刻んで日々汗を流しています。主将の伊師若菜さん（人間科学部現代社会学科3年）は「稽古の中で集中力や忍耐力、精神力が強化され、どんなことにも打たれ強くなりました」と、その成長ぶりを語ってくれました。指導者にお迎えした阿部昭彦師範は部員と一緒に汗を流し、基礎から実践まで細かく丁寧な指導が持ち味。就任からわずかな期間にもかかわらず「部員たちの足さばきや打突の切れだけでなく、稽古に対する姿勢も明らかに変わった」と顧問の小澤先生も驚くほどです。インカレ出場という目標達成に向け、部員一同、課題の克服に余念がありません。

## 人間形成の過程としてインカレ出場を目指す。

ただ勝つだけでなく、正しく強くなるために。

# Wind Orchestra 吹奏楽団



牧野 英一氏  
 元県立高校教諭、校長。指導者として吹奏楽コンクール関東大会に出場。日本フルート協会常任理事、茨城県吹奏楽連盟東北地区長を務め、指導者として活躍中。

## 指導者プロフィール

仲間と曲を奏でる喜びを表現する喜びを伝えたい。入学式や卒業式、ときわ祭などの学内イベントをはじめ、各種コンクールでも活躍する吹奏楽団。結成30周年を迎える本年、常任指揮者に牧野英一氏を迎えました。指導にあたる牧野先生は、「人数は少なくとも音はよく出ているので、効率のいい息継ぎ、耳をついていくトレーニングを積み重ねていく音になっていくはず」と太鼓判を押します。団長の黒柳聡美さん（人間科学部教育学科3年）も「少しでもいい演奏ができるよう、練習時には先輩・後輩、遠慮なく言い合い、互いに刺激し合いながらレベルアップを目指しています」と思いを語ってくれました。クラシック、映画音楽、アニメなど豊富なレパートリーを持つ同楽団の醸し出す音色に注目です。

一人ひとりの演奏技術を高め、深みのあるハーモニーを追求。

# Baseball 野球部



平成24年 関甲新学生野球リーグ 秋季入れ替え戦 3回戦。相手打線を2失点に抑えた黒沢投手。茨城新聞2012年10月23日に掲載。



秋季リーグ戦で悲願達成！  
 三季ぶりの一部昇格を決めました。

## ミスなく役割をこなせば結果はおのずとついてくる。

関甲新学生野球秋季リーグ戦で9勝1敗の戦績で優勝し、その後の一部二部入れ替え戦で松本大学に勝ち、三季ぶりに一部昇格が決まりました。春に二部残留した悔しさを胸に、部員一人一人練習に打ち込んだことが今回の勝利につながったと思います。リーグ戦は「戦」が勝負です。一敗でもしたら優勝できないと思い、目の前の対戦相手に、それぞれの役割をしっかりと果たしながら向き合うことに努めました。ミスがあればチーム全体で話し合い、同じ失敗を繰り返さないように徹底しました。ミスついで試合の流れは変わるし、逆にそれさえなくせばチャンスの波に乗ることができま



常磐大学 人間科学部現代社会学科3年  
 主将 石井 秀征

ミスがあればチーム全体で話し合い、同じ失敗を繰り返さないように徹底しました。ミスついで試合の流れは変わるし、逆にそれさえなくせばチャンスの波に乗ることができま

## 平成24年秋季リーグ戦結果

- vs新潟大学戦 9月8日・9日  
○8-0 ○8-4
  - vs埼玉大学戦 9月15日・16日  
○11-2 ○3-0
  - vs宇都宮大学戦 9月22日・23日  
○10-0 ○7-4
  - vs山梨大学戦 10月6日・8日  
○12-0 ○9-1
  - vs関東学園大学戦 10月13日・14日  
○6-4 ●5-7
- 9勝1敗で2部リーグ優勝

## 平成24年入れ替え戦結果

- vs松本大学戦 10月20・21・22日  
1回戦 ○1-0  
2回戦 ●1-2  
3回戦 ○5-2
- 接戦を制して1部昇格

## 目からウロコのアドバイス 監督やコーチに感謝。

ベンチ以外のメンバーの意見も大事にし「試合に出られない彼らの分までがんばろう」とチームの結束も強まりました。駒田コーチからは、プロとしての経験からくる具体的なアドバイスに大いに刺激を受けています。風向きや配球など、「そこまで考えるのか！」とハツとさせられることが多い、練習に対する意識も大きく変わりました。技術面でも、メンタル面でもたくさんのお話を聞いています。指導熱心な方で、何としてもその指導に報いる結果を残したいし、自分たちからもどんどん教わりたいたいと思いたくない。大学からの支援には本当に感謝しています。次シーズンは一部リーグでプレーできることに感謝し、優勝を目指します。

## 指導者プロフィール

元巨人軍の駒田徳広氏が臨時コーチに就任。



現役時代、巨人や横浜で活躍し、チャンスに強い「満塁男」として名を馳せた駒田徳広氏が、本学野球部の臨時コーチに就任しました。9月4日に行われた会見で「打撃力を強化すれば勝てるチームになる」とコメント。「積極的マイナス思考」など独自の指導法で技術だけでなく精神面も大いに強化してくれるはずですよ。



プレーヤーとしての自立と、  
全日本学生選手権トップ10を目指す。

マナーを第一に  
将来はプロゴルファーへ。

ゴルフの魅力を「いつも同じショット、スイングができないことが、難しさであり楽しさでもある」と語る助川椋さん(国際学部英米語学科3年)。常磐大学に入学したのは、将来プロゴルファーとして世界で戦うときに、英語が堪能であればプレーにも役立つと考えたから。大学に入ってから、連盟への登録や大会への申し込みなども全て自分で行うようになり、自己管理の面でも成長してきました。

スコアや順位の前に、まずマナーがしっかりした選手であることを心掛けています。全日本学生ゴルフ選手権でトップ10にランクインすることを目標に、打ち込みや長距離の走り込みなどを繰り返し行い、メンタルも含めたトレーニングに余念がありません。



常磐大学  
国際学部英米語学科3年  
助川 椋

## 学生支援センターより

**夢にチャレンジする学生に  
ぜひ温かい声援を  
お願いします。**

特に、高校までの部活動とは異なり、大学では学生が自らの判断と責任において活動する領域が広がります。活動の中で思うようにならない



ことに直面したとき、自分たちで問題を探り、厳しい練習に耐え、チームで課題を乗り越えるという経験が、学生たちの考える力や行動力、表現力を何倍にも成長させてくれると考えています。

また、スポーツや芸術の分野での学生たちの活躍は、大学に活気をもたらし、卒業生も含めた一体感を盛り上げることも期待されます。

学生支援センターは学生の夢にチャレンジするきっかけを提供し、部活動の強化支援を通して、魅力ある大学づくりを目指しています。学生たちは支援を受けてなお一層の努力を始めています。ぜひ彼らの活動に温かい声援をお送りください。



経験者を中心に、ゼロからのスタート  
学生たちのチームづくりに期待。

仲間たちと共に  
新たなチームづくりを開始。

2012年秋に活動を開始したばかりです。私は常磐大学高校サッカー部の出身で、高校の監督からも常磐大学でサッカー部の活動が始まるかもしれないと聞いて期待していました。2年生になって学生支援センターの方から正式に体育会サッカー部への協力を要請され、キャプテンとして仲間たちと新しいチームづくりを進めています。

私は高校時代にもキャプテンを務めていたため、チームをまとめる大変さは充分知っているつもりですが、振り返ると人間的にも成長することができた貴重な経験でもあったので、大学でまた、キャプテンの役割を担うことを光栄に感じています。



常磐大学  
人間科学部コミュニケーション学科2年  
キャプテン 額賀 達也

全般的な支援を受け  
あとはやる気だけです。

現在は週1回月曜日の18時から19時半の間、大学のグラウンドでの練習が主体です。サッカーは初心者というメンバーも多いため、なるべくボールに触れるように、練習方法を工夫しています。今後は、みんなで考えながら常磐大学のスタイルを作っていきたいと思っています。目標は、まず活動を続けることを第一に、サッカーの技量に関係なくプレーを楽しめるチームにすることです。そして、いずれは大学サークルや社会人のチームと練習試合を組み、技術やチームプレーを伸ばして、少しずつチームを強くしていきたいと考えています。

高校まではサッカー部に入学すれば当たり前のようにできていたことが、ここでは、全て自分たちで考え、実行しなければなりません。ほぼゼロからスタートする苦労はもちろんありますが、反面、自分たちの思い通りのチームにできるというやりがいも感じています。学生支援センターの方には全面的にバックアップしていただいているので、あとは僕らのやる気の問題です。メンバーの意識をしっかりと合わせて、大学の代表にふさわしいチームに育てていきたいと思っています。



常磐大学  
国際学部経営学科1年  
塩畑 智大

ボールやピンスなど必要なものをそろえていただき、大学が支援してくれていることを実感。部を盛り上げていきたいです。



常磐大学  
国際学部経営学科1年  
島 和太

部の活動を自分たちでつくるのは初めてですが、チームの雰囲気がいいため、意見を出し合って発展させようと思っています。



常磐大学  
人間科学部心理学科1年  
松崎 郁

和気あいあいとしたフレンドリーなチームですが、練習と試合経験を積んで力が付けられるようがんばります。

# 茨城を代表する新スイーツを共同開発。

あさ川製菓株式会社のバックアップの下、地元食材を使ったオリジナル製品を開発。

## THE WAY TO THE DEVELOPMENT 開発までの道のり

2010.12



### 工場見学

あさ川製菓の製造ラインを見学。地元銘菓がどう作られているのか、一同興味津々。次から次へと大量生産されるおなじみのお菓子の数々。一方、機械任せにできない工程も多く、熟練の職人さんたちの技が光っていた。

2011.2



### 市場調査

県内外の有名デパートを視察。「自分だったらどんなお菓子をお土産にしたいか」、包装形態まで注意する。個包装の商品が多く、「小さめのお菓子を少しずつ」「たくさん種類を手にとってもらおう」ことを意識するように。

2011.7-10



### 試作品検証

もともと食べることに人一倍興味のある選抜チーム。学生ならではの、ユニークで斬新なアイデアが飛び交う。新しい食材の組み合わせ、食感を求めて試食を続ける日々。ただ、この時点では「賞味期限」という要素については誰も気に留めていなかった…。

2012.3



### 商品化の最終検討

量産が可能か工場の設備を使って検討。商品として広く流通するためには、日持ちすることが必須であることを知る。生クリーム、芋けんぴなど数々のアイデア食材がこの時点で候補から脱落。職人さん、工場長から商品化に向けた手ほどきを受ける。

2012.9

### ついに完成!!

茨城の観光名所をイメージした和菓子「ぶよもち」と特別栽培の紅あずまを使った洋菓子「常磐の宝箱 ポテトプリンセス」の2製品が完成。ぶよもちは四季ごとに3種の彩りを、ポテトプリンセスは高級感と幅広い世代に受け入れられることを狙って優しいイメージの白のパッケージに。



「ぶよもち」



「常磐の宝箱 ポテトプリンセス」

## 特別座談会

# 2年がかりのプロジェクト、 長かった道のりを振り返って。

常磐大学人間科学部健康栄養学科の学生5名が、「水戸の梅」「吉原殿中」でおなじみのあさ川製菓の全面支援を受け、荒田准教授指導の下、幅広い世代をターゲットにした地域ブランド商品の開発に取り組みました。市場調査からパッケージ作りまで、2年にわたる試行錯誤の末、2製品が商品化され、2012年9月20日、発売を迎えることができました。完成までの道のりを振り返ってもらいます。



比企…ときわ祭  
た。  
を強く感じまし  
ることの大切さ  
意見を取り入れ  
つて視野が広が  
アイディアをもら  
対にみんなから  
ともあったし、反  
効率の問題もあつて諦めなければならぬこ

みんなの意見の集大成が商品に  
地元で愛される定番商品を目指す。

荒田…2年にわたったこのプロジェクトで、  
ついに二つのお菓子が商品化されました。

根本…紆余曲折があつたけれど無事、商品化  
できてよかったです。みんなの意見の集大成  
に満足しています。

永作…うまくいわずに悩んだこともありまし  
たが、最終的に二つの予定が二つも商品化でき  
ました。栄養教諭の実習先でも職員室やクラ  
スで、「先生どうして新聞に載っているの?」と  
話題になったり、本当にありがたかったです。

内田…それまで手作りでしたがお菓子を作った  
ことがなかったのでコスト面など、全て手探り  
でしたが、本当に商品化できてよかったです。アル  
バイト先で、ご年配の方が「ぶよもち」を買って  
いるところを見かけたときは、思わず「私が作  
りました。ありがとうございます!」と話しか  
けてしまいました(笑)。

青山…私は商品開発に興味があつてこのプロ  
ジェクトに参加しました。自分の考えたもの  
が商品になるのだと、最初は「自分が、自分  
が」と意気込んでいたのですが、大量生産では  
効率の問題もあつて諦めなければならぬこ

で試作品を販売したとき「おいしい」という声  
が多くてホッとしました。私たちは商品を完成  
させることがゴールですが、買ってくださった  
方はそれがお菓子との出会いであり、スタート  
なんですよね。

荒田…みんなが提案してくれたアイデアは、ど  
れもおもしろいけど、商品化が難しかったり、  
何度も試行錯誤を繰り返しましたね。

根本…そのとき食べればおいしいというものほ  
かりでしたから、賞味期限を担保できません  
でした。サクサク感を出すにはチョコでコーテ  
ィングすればいいと分かったけれど、設備の関  
係で断念せざるを得なかったり。

永作…初期の「ぶよもち」もそうでした。

荒田…どんなお菓子にしたかったの?

永作…でんぶんもちで、中身は芋あん。もちよ  
りぶるんつとして、本当にぶよつという食感で  
した。

一同…すごくおいしかった。

根本…でも、1日で固くなり、作りたてのおい  
しさを届けられないよね。

青山…最初のころは賞味期限なども考えず  
に、ただみんなで食べたいものを提案していま  
した。

比企…あさ川の職人さんは、私たちの「もつと甘  
くない方がいい」などの勝手な意見を解釈し直  
して、いつもおいしいものを作ってくれたこと  
に驚きました。

榎山…私たち菓子業界にいる者には「お菓子と  
はこういうものだ」という固定観念があるので、  
今回のプロジェクトは若い人の率直な意見を聞  
く貴重な場でした。いろいろな壁を乗り越えた  
から、今の「ぶよもち」ができたわけで、その過  
程にも大いに意味があつたと思います。

「中途半端なものを出したくない  
というみんなのこだわりには  
本当に驚かされました」

人間科学部健康栄養学科 准教授 荒田 玲子





「みんなが納得できる製品ができたのは、  
とことん試行錯誤したからこそでしょう」

あざ川製菓株式会社 企画課係長 榎山 正秀さん



「諦めなければ道は開ける。  
自分の成長につながったと思います」

人間科学部健康栄養学科4年 永作 莉央



伝統に新風を吹き込み  
幅広い世代の開拓、  
店舗の活性化につながった。

荒田：榎山さんにお聞きしますが、発売後の手応えや社内の評判はいかがですか。

榎山：「ぶよもち」は今までになかった新感覚の和菓子で、「四季ごと」に中身が替わるのが面白い」と幅広い年齢層に受け入れられています。今までのお客さまに加えて若い世代の方にも好評で、店舗の活性化にもつながっています。「ポテトプリンセス」は有機栽培の紅あずまの調達が難しいのですが、「イモの風味と、角切りりんごの食感のバランスが絶妙でおいしい」との声も多くいただき、私たちのこだわりの消費者の方々にも伝わっているようです。今後も、長く愛される定番商品になるよう営業していきます。社内でも、140年の伝統を守りながら学生の感覚を取り入れて新しいことにチャレンジできた」と評判です。

荒田：みなさんが「一番苦労したことは何でしたか。」  
内田：「賞味期限」と「コスト面」です。  
永作：「甘さにこだわると賞味期限が短くなる。そもそもどういことが大量生産に向いているか分かっていませんでした。」  
青山：「保存方法も、冷蔵か冷凍かで悩みました。製造ラインの機械についても知識不足でした。」

内田：「ポテトプリンセス」に芋けんぴをのせるアイデアもあったのですが、手作りの場合と違って、商品として世に出すには難しいことがあるということを学びました。  
榎山：確率は低くても、芋けんぴの固い部分がパッケージに当たると穴が開く可能性が

んごバイの評判がいいようです。  
比企：おいしいから、あれもこれも加えたいと、四季の彩りを考えたんですよ。  
永作：本当にがんばってよかった。

納得いくものが作れるまで  
諦めずにごんばれたことが自信に。

荒田：このプロジェクトで何を学べることを得たかと思えますか。

比企：間に東日本大震災も起こってプロジェクト自体なくなるかもしれないと思ったけど、こうして販売に漕ぎ着けて、諦めないでよかったと思います。

青山：みんなで協力したからできたことだと思います。ようやく納得いくものができた。その達成感を体験できたことがよかったです。

内田：作りたかったものはそれぞれ少なからず違っていたけれど、最終的に二つも商品化されてPRされていることがうれしいです。お客さまの立場に立って考えたからこそ、商品として完成できたと思うし、将来商品開発の道に進むかはまだ分かりませんが、食べる人の立場に立って考える姿勢はこれから大切にしたいと思っています。

永作：壁にぶつかったときは視点を換えることも大切だと思いました。始めた以上は責任がありました。諦めなければ道は開けると実感でき、自分の成長につながったと思います。

根本：ひとつのものを作る過程には職人さんをはじめ、営業、材料調達、パッケージデザイナーの方など、さまざまな分野のプロの方々がいて、その方たちのおかげで完成できたと思います。各分野のプロフェッショナルの方々を知り合えたことは自分にとってすごく刺激になり

あつて、商品化は難しいと判断しました。

荒田：私たち管理栄養士も食品衛生は、一番重視することですよ。どんなにおいしくても食中毒を出したらその施設の評判はガク落ちです。それにしても味に対するみんなのこだわりはすごかった。ただ単純な味ではなく、別の食材との組み合わせや、食感の面白さまで追求していました。

永作：もつと固い方がいいとか、甘さと塩味をミックスしたらどうかと試行錯誤したこともありました。  
根本：クリームとクッキーを合わせたけれど、しっとりし過ぎるのでタイプにしてみました。どうだろうか、とか。

内田：試してみたらイモの風味が物足りなくなりました。

永作：「ぶよもち」は、日持ちするように求肥や羽二重でも試してみましたが、でんぷんもちの食感には及びませんでした。これなら出したくないと、端、全部白紙にしました。  
内田：二期、みんなすっかり落ち込んで、やる気を失っていたときに、工場長さんの「まぶすものを色々考えてみたら」というひと言がヒントになったんですよ。

永作：そう！それで初期のアイデアをもう一度試してみたら、味も見た目も色々なものができあがって、みんなで「かわいい！」って。  
根本：初めてみんなの意見が一致した。それから完成までは早かったね。

比企：日持ちの問題は、エイジレス(脱酸素剤)や包装を工夫して解決できました。  
榎山：季節ごとに組み合わせを替えるアイデアもよかったですね。麦こがしは「懐かしい」とご年配の方に好評です。若い世代には

ました。卒業後は栄養士として病院に勤務する予定ですが、食のプロとして学んできたことを活かして、プライドを持って働きたいと思っています。

青山：今回このプロジェクトに参加できなかった人たちの分もごんばることができた。自信を持って言えるものを作れたと思います。

比企：私も仕事に就くときにこの経験をどう活かせるか、楽しみです。

荒田：根本さんと永作さんは以前にもセブンイレブンのお弁当の提案や、県庁食堂のヘルシーメニューの提案に関わっていましたね。健康栄養学科はもともと食べることが好きで、いろいろなところにアンテナを張っている学生が多いので、みなさんの取り組みには高校生も注目していると思います。

永作：こうした活動を、ぜひ後輩たちに引き継いでいってほしいですね。



「一人ではとてもできない経験でした。  
周りの意見を取り入れることの大切さを実感」

人間科学部健康栄養学科3年 青山 菜



「私たちは商品化して終わりだけど、買った人は  
それが始まり。長く愛されるお菓子になってほしい」

人間科学部健康栄養学科3年 比企 友里恵



「それぞれの分野のプロに刺激を受けました。  
私も食のプロとしてプライドを持って働きます」

人間科学部健康栄養学科4年 根本 哲紀



「お客様の立場に立ってとことん考えた、  
この気持ちをこれからも大切にします」

人間科学部健康栄養学科3年 内田 恵利香

# 夏のカナダで海外を体験。

現地の高校の授業やホームステイから、新たな刺激を受けた10日間。



帰国後、生徒たちの学習意欲が高まりました。

以前から国際教育に力を入れてきた常磐大学高等学校では、2012年度から、新たにサマーキャンプ(10日間英語集中プログラム)を実施しました。カナダでホームステイをしながら、現地の高校で授業を受け、国際的な視野を養うことが目的です。わずか10日間ですが、海外での生活は生徒の意識に大きく影響し、帰国後はスピーチコンテストに出場したり、検定に挑戦するなど、意欲的な活動が目立っています。

今後はカナディアン先住民の子孫にお話を聞いたり、社会体験を取り入れるなど、カナダの文化を学ぶ機会を増やしたいと思っています。本校にはカナダでの3カ月間にわたる短期語学留学制度もあり、サマーキャンプがその導入となることを期待しています。



常磐大学高等学校  
国際教育担当教諭  
鈴木 レイ子



常磐大学高等学校1年  
江口 奈和

**失敗を恐れずに話すことが大切だと学びました。**

カナダの空港まで出迎えてくれたホストファミリーに、感謝の気持ちをうまく伝えることができず、その反省から、翌日からは多少文法は間違っていたとしても、積極的に話すよう心がけました。現地の人と思いが通じたときはとてもうれしくて、失敗を恐れずに話すことが大事だと実感しました。授業の課題に街の地名や建物の名前を使ったワードバズルがあり、ホストファミリーと一緒に街を歩いてくれて、街のつくりを教えてもらったことが印象に残っています。まだまだ英語は未熟ですが、今回の体験で学んだことを生かして、今までもよりたくさん単語に触れ、何度も書いて読んで調べるように努力し、授業だけでなく英語を使うことに挑戦するつもりです。



常磐大学高等学校1年  
高島 里菜

**英語を使った仕事をしたい、その思いを新たにしたい10日間。**

以前から留学を希望していましたが、本格的な留学を考える前に海外の生活を知っておきたいと思い、このプログラムに参加しました。サマーキャンプに行く前の事前準備では、ジェイソン先生と会話の練習をし、毎日英語で日記を書くことで、新しい表現を身に付けるなど、とても有意義な学習ができました。その成果か、カナダでは予想より自分の英語が通じたという感触がありました。その一方で、言いたいことがすぐに英語で言えず、悔しい思いをしたことも何度かありました。将来は英語を使った仕事がしたいと考えています。今回の体験でその思いがより強くなったので、英語力を高め長期の留学に挑戦したいという新しい目標が生まれました。



## Summer Camp



**初めてのカナダは優しく、陽気に歓迎してくれました。**

今回のサマーキャンプでは、ホストファミリーと過ごした週末の出来事が忘れられない思い出になりました。金曜日に出発し、その夜はホストファミリーの実家に宿泊。次の日は、ハイキングに行きました。大自然の中の川と湖、そびえたつ山はとても美しく、野生のリスが間近を駆けていったことが印象的でした。翌日の日曜日には家族全員でチャーチサービスに出かけたのですが、私の想像とは全く様子が違って、みんなで声を合わせて歌い、笑いあふれる楽しい時間を過ごしました。ホームステイは二人組が基本ですが、私は今回一人でのホームステイとなり、最初は不安でした。しかし、プログラムを終えてみると、一人の方が多くのことを学べて良かったと思いました。初めてのカナダは優しく、陽気な印象でしたが、自分の英語力はまだまだだと痛感し、今後はできるだけ英語に触れる機会を多くしていきたいです。



常磐大学高等学校1年  
上田 彩乃

**自分の苦手な部分に気づき、工夫して英語を勉強しています。**

カナダに着いたばかりの前半は、現地の人の会話をほとんど聞きとることができず、日本に帰りたいばかり思っていました。そんな気分を変えてくれたのはホームステイ先の家族でした。皆とても親切で、忙しい中、時間を割いて街を案内してくれたり、おいしい食事を食べさせてくれたり、おかげで楽しい日々を過ごすことができました。また、カナダの人はとてもフレンドリーで、日本との違いを強く感じました。市内ではバスなどを利用して移動したのですが、キャンプの後半にはずいぶん上手に乗り継いだりできるようになりました。わずか10日間の体験ではあったけれど、少しずつ会話を聞きとることができるようになり、最後は日本に帰りたくないと思うほどになったことがうれしかったです。今回の経験で、自分自身はリスニングが苦手だということに気づいたので、帰国後はそれを克服したいと思い、洋楽を聴くなど工夫して学んでいます。



常磐大学高等学校1年  
新堀 千佳

# 英語を駆使して、日本を体感。

留学生との班行動や大学見学も盛り込み、日本の文化と伝統を学んできました。



10月4日(木)1日目

■水戸を出発、一路奈良へ  
歴史をたどる旅がスタート!

■奈良公園散策

東大寺、興福寺、春日大社、国立博物館、正倉院など貴重な歴史文化遺産もたくさん。

■大仏殿見学

東大寺大仏殿は世界最大の木造建築物、大仏様の大きさにビックリしました!

■京都に戻り宿泊

10月5日(金)2日目

■班ごとに京都市内研修

学んできた英語が通じて、うれしかった。

■清水寺見学

「清水の舞台から飛び下りるつもりで…」の語源となった場所は見晴らしが抜群。

■青蓮院で体験学習

法話、お抹茶、お琴鑑賞を体験。正座は大変でしたが、感謝の心の大きさが身に染みました。

■將軍塚

東山ドライブウェイの頂上展望台から夜景を見ました。

■ホテルへ

10月6日(土)3日目

■妙心寺で座禅体験

座禅を組みました。自分と向き合うことができたかな?

■京都大学キャンパスツアー

大学で学ぶことの楽しさ、受験への心構えなどとても参考になるお話を聞きました。

■北野天満宮

特別昇殿参拝祈禱を受けました。気持ちも未来を向き始めました。

■帰路

充実した3日間を終えて、新たな一歩へ。

静まり返った夜の青蓮院で、自分と向き合うことを学びました。

智学館中等教育学校5年次主任 蔦田 雄希

初めての京都 奈良研修旅行は、古都を散策しながら、法話や座禅、外国人留学生との半日班行動、大学生によるキャンパスツアーなど、盛りだくさんの内容で、楽しく、また、将来のための勉強にもなりました。

班単位の行動では、時間内に回れる範囲を考えながら、昼食はどこでとるかなど、メンバーと計画を練りました。私たちの班はロシア人留学生と行動を共にし、金閣寺と四条河原、祇園をまわりました。昨年のアメリカ海外研修では短い会話がほとんどでしたが、今回は半日一緒に行動することで、英語での会話も弾み、自信にもなりました。

特に印象に残っているのは、2日目の夕食後、静まり返った青蓮院で、法話を聞き、お茶をいただいた体験です。正座には苦労しましたが、「大切な五つの心」というお話を聞き、親や先生に感謝すること、自分と向き合つて生きることを学びました。

世界と日本を知る体験を重視。

生徒たちの成長を実感しています。

智学館中等教育学校5年次主任 政岡 悟

今回の国内研修旅行には二つの狙いがありました。一つは日本文化に深く触れること。そしてもう一つが智学館の教育の核であるグローバルマインドをさらに高めることです。

1日目に奈良を見学し、京都へと向かう日程を組んだのは、歴史の流れを追うという意味がありました。また、普段の旅行では触れないような体験型のプランを用意したのも、日本の文化を身をもって味わい、自分と向き合う時間を過ごしてほしいという意図からです。昨年の海外研修旅行で、生徒たちは外の世界を知り、日本という国をあらためて見直すきっかけを得たはず。その上で日本の歴史と文化を学ぶことは、世界の中の日本を意識することにつながるかと期待しています。

また、留学生との班別行動では、さまざまな国の人と市内を歩くことで、日本の伝統と歴史遺産を学びながら、英語を駆使して「ミニユニーク」することにも挑戦しました。その成果は研修後、生徒たちの態度がより意欲的になったことに表れていると思います。

事前学習では班の計画を細かく打ち合わせてきており、当日の行動は

また、3日目の京都大学でのキャンパスツアーでは、工学部の方にキャンパス内を案内していただきながら、大学で学ぶことの意義や楽しさについて、参考になるお話をたくさん聞くことができました。「英語はしっかり学んでおくべき」と言われ、研修を終えてからクラスの仲間と自主的に英語の学習会を始めました。クラスリーダーの大役も無事果たすことができ、実りの多い研修旅行にできたと満足しています。



とてもスムーズでした。また、クラスリーダーの主体的な行動からは、きちんと自分たちを律する力が育つていると、頼もしく感じました。生徒を叱る必要が二度もなかったということが、それを物語っています。今後は教科と連携して、事前に留学生と連絡をとったり、歴史的背景について深く学んだりできると、より学習効果が上がると思います。

日程の最後には北野天満宮特別昇殿を参拝しました。各自、絵馬に祈願したり、お守りをいただいたりしていたようです。この研修旅行を終えた後、各クラスには落ち着きが出てきました。法話や座禅の体験は、学校生活のひとつの区切りとしても大きな意味があったと感じています。



# 子どもの育ちを支え合う。

## 親子でのびのびと遊びながら社会性を育む 2歳児のための親子プログラム「まつの子ぐみ」。

常磐大学幼稚園では、2000年度から地域の子育て支援活動の一環として、幼稚園入園前の2歳児を対象とした親子プログラム「まつの子ぐみ」を実施しています。2012年度は5月から2月まで計53回を予定。親と一緒に遊びながら、同じ年齢の子どもたちと触れ合うことで、少しずつ集団生活に慣れ、幼稚園入園前に社会性の基礎を育むことを目指します。まつの子ぐみでは、幼稚園を囲む豊かな自然を生かし、季節に合わせた行事や企画など、月ごとにテーマを設けています。水遊びや、絵の具遊び、ごっこ遊びなど、幼稚園だからこそ体験できる、いろいろな遊びを通じて、子ども同士や親子間だけでなく、親同士の交流が広がることも期待されています。本学ゆかりの「常磐松」にかけ、子どもの成長をゆつくり「待つ」想いをつなぐ「まつの子ぐみ」。併設する大学・短大で幼児教育を担当する教員もサポートしているため、子どもの発達や食事、生活面での悩みなどについて、いつでも相談できる環境が整っていることも特徴です。



### 少し離れて見守る 大切さを学ぶ

まつの子ぐみ 保護者 鈴木 理絵子

長女も常磐大学幼稚園の修了生でした。経験豊富な先生方と、自然に囲まれた環境の中、体験を通じて生きる力を育むという園の方針を信頼していたので、迷わず参加を決めました。

季節の行事をお祝いすることで、伝統行事に関心を持ったり、同い年の友達と一緒に遊ぶことで、楽しいこと悪いことを理解できるようになりました。私自身、親としてどこまで子どもに関わるべきか悩むこともありますが、短期大学の木村先生のお話を聞いたことで少し離れて見守ることの大切さを学びました。先生やお友達など、家族以外から認められることで、子どもが自立への第歩を踏み出せたらいいと思っています。



### 悩んでいるのは自分だけじゃない 親同士の触れ合いで生まれる安心感

常磐短期大学 幼児教育保育学科 専任講師 木村 由希

まつの子ぐみでは、年2回、親だけで子育てについて話し合う機会を設けています。小さい子どもを抱えていると、普段は親同士ゆっくり話をする時間がとりにくいもの。子どもと離れて、ゆっくり・じっくり話をすることで、子どもや子育てについて客観的に考えたり、悩んでいるのは自分だけではないことに気付いたりし、安心して、自信を持って子どもと向き合えるようになることを期待しています。

今回は事前にアンケートをとり、他の家庭でのやり方で聞いてみたいことを書いていただきました。起床・就寝時間、テレビ視聴、読み聞かせ、家での遊び、習い事…。トイレトレーニングも話題にしました。

2歳児はだんだんと知恵が付いてくる時期で、この1〜2年はいわば親子の知恵比べ。親の関わり方にも工夫やバリエーションが求められます。まつの子ぐみのような機会に先生や他の親たちの関わりを見たり、話を聞いたり、またネットや育児書を参考にしたりして、関わり方の幅を増やすとよいでしょう。そして、子どもと同じ土俵には立たず、心理的に少し離れた視点からいろいろな投げかけを試してみる。子どもの反応を「そう来たか!？」と受け止められるよう

になると、子どもの成長を楽しめるようになるかもしれません。

また、「ほく(わたくし)ってすごい」という誇らしさの芽生えるこの年齢は褒めて育てることが有効な時期でもありません。例えば、ご飯をたくさん食べられない子には初めから量を少なくして「全部食べられたね。えっ、おかわりもするの? すこいなあ」という具合に。意識して褒める場面を作って後押ししてあげるといいですね。

「魔の2歳児」という言葉もあるくらい、この時期の子育ては親にとって大変といわれます。みんな悩む時期だからこそ、上手に情報交換しながら、乗り切っていきたいものですね。



### 自我の芽生える難しい時期 親と共に子どもの成長を見守る

常磐大学幼稚園 教頭 小貫 東里

このプログラムは、子どもたちに集団行動に慣れてもらうと同時に、保護者の方には園での子どもたちへの関わり方を見ていただき、子育ての参考にしていただくことが目的です。年間を通じて、周囲の自然の豊かさや季節感を味わいながら、砂場遊びや絵の具遊び、あるいはごっこ遊びをしながら、保護者の方と一緒に子どもの育ちを支え合うことを目指しています。また、幼稚園の教師や短大で幼児教育を専門に研究されている先生方に、子育ての悩みを直接相談することもできますので、ぜひ活用していただきたいと思っています。

未就園の時期から集団生活を体験することで、子どもたちは食事のマナーや、我慢することを覚えるなどの社会性を身に付けていきます。そのためか、まつの子ぐみを経験した子どもたちは、就園しても周りの子どもたちに良い影響を与えているようです。

保護者の方も一緒に育てようという意識を持っていくと、子どもたちも自然に積極的に声をかける場面も多く見られ、自然に親同士の情報交換も活発になっていきます。

自我が芽生え始めるこの時期は、親の言うことを素直に聞けなくなることが増えてきます。ときにはお友達と気に入ったものを取り合うこともあります。乗り越えなければならないものも多い時期で



すが、密に親子で関わっている、またとない貴重な時期でもあります。この時の一瞬を大切に、子どもとよく向き合うことが、将来しっかりとした人間に育つ基礎になります。

発達面では個人差があり、親はどうしても自分の子どもと他の子どもを比べて、焦ったり悩んだりしてしまいがちですが、保護者の方には、「みなさんその育ちを通過していくので大丈夫ですよ」とお伝えしています。今できなくても先々にできるようにになればいい、と長い目で子どもを見守り、安心して子育てができるよう、当園で楽しい時間を過ごしてもらえことを願っています。

# Books

教員著書案内



- ① Victimology and Human Security: New Horizons
- ② G. F. Kirchhoff  
被害者学研究科 教授
- ③ Morosawa, Hidemichi  
Dussich, John J. P.  
Kirchhoff, Gerd Ferdinand  
(eds.)
- ④ 2012年5月
- ⑤ WOLF LEGAL PUBLISHERS

2009年常盤大学にて開催された第13回世界被害者学会で発表された論文の選集です。日本の被害者援助運動の歴史、国際的な面から捉えた被害者の人権など、幅広いテーマを集録。



- ① 「小さな大国」ニュージーランドの教えるもの  
—世界と日本を先導した南の理想郷—
- ② 千手 正治  
人間科学部 准教授
- ③ 日本ニュージーランド学会・東北公益文科大学ニュージーランド研究所 編
- ④ 2012年7月
- ⑤ 論創社

本書は、専門を異にする17名が各分野においてニュージーランドから学ぶべき事項についてまとめたもので、千手は「ニュージーランドにおける犯罪被害者政策」を担当しました。



- ① 理科の授業研究
- ② 鈴木 宏昭  
人間科学部 助教
- ③ 山下修一 編著
- ④ 2012年9月
- ⑤ 北樹出版

理科授業の構想・実践・評価を継続的にいき、より客観的に研究するためのテキストです。鈴木は「理科学習指導案の書き方」および「理科授業の分析方法」を担当しました。



- ① 演習ノート  
国際関係法[公法系]
- ② 渡部 茂己  
国際学部 教授
- ③ 松田 幹夫 編
- ④ 2012年7月
- ⑤ 法書院

国際法の法源、国家承継、世界人権宣言などの国際法の重要テーマを網羅した体系的演習書です。渡部は「国際組織」、「紛争処理」、「国際人権法」の各分野を執筆。



- ① 会社神話の経営人類学
- ② 村山 元理  
国際学部 教授
- ③ 日置弘一郎・中牧弘充 編
- ④ 2012年10月
- ⑤ 東方出版

民族学博物館の経営人類学の共同研究による6冊目。11編の珠玉の論文集。村山はメンタムで著名な近江兄弟社の創業と再生を共信共栄の神話という視点から記述した。



- ① モンスーンアジアのフードと風土
- ② 元木 理寿  
コミュニティ振興学部 助教
- ③ 横山智・荒木一視・松本淳 編著
- ④ 2012年9月
- ⑤ 明石書店

本書は、モンスーンアジア地域に存在する農産物、あるいは料理、飲酒の文化を各地域の風土と共にその魅力をまとめた一冊です。元木は「薩摩焼酎と地理的表示」を執筆。



- ① 保育者論
- ② 福田 洋子  
短期大学 准教授
- ③ 小田豊 監修  
同上直子・高梨佳子 編著
- ④ 2012年9月
- ⑤ 光生館

これから保育者になろうとしている学生に伝えたいことの全てを本書に詰め込みました。質の高い教育・保育を目指す保育者の在り方を示す「保育者論」です。



- ① 教育・保育実習と実習指導
- ② 福田 洋子  
短期大学 准教授
- ③ 小田豊 監修  
同上直子・鈴木みゆき・酒井幸子 編著
- ④ 2012年9月
- ⑤ 光生館

実習の意義や目的、実習の在り方などについて、学生に分かりやすい具体例やエピソードを多く取り入れました。また指導計画の作成・実施のための教材と指導法を工夫しました。

## TOPIC

### 決定！ぼくの名前は「ときわんこ」です。

七夕フェスティバルで選ばれたマスコットキャラクターの名前が決まりました。「ときわんこ」です。イベントなどに登場します。これからよろしくお祈りします。



「ときわ祭2012」で早速大活躍しました。



小さいお友達にも大人気！



生け花に興味津々。「ぼくにもできるかな？」



## 研究紹介

リスニングテストは聴解力を正しく判定できているか？  
選択肢の数の違いが解答に与える影響を明らかにし、最適な選択肢の数を考察

常盤大学  
国際学部英米語学科  
准教授 飯村 英樹  
博士(言語学)

### ■ 研究テーマ

多肢選択式リスニングテストにおける選択肢の数の検証

【平成23～26年度日本学術振興会・科学研究費補助金（基盤研究(C)）に採択】



日本人が長年英語を学習してもうまく話せないのは、聴く練習をしてこなかったから。リスニングテストの選択肢も文字で書かれている方がテスト作成者にも負担が少ない。ただ、それで本当にリスニングの習熟度を測れるのか、というのが出発点でした。

選択肢は「四択」が妥当か  
まずは常識を疑ってみる

英語のリスニングテストにおける選択肢の数はなぜ四つなのか。リスニングテストでは多肢選択式、真偽判定、自由記述など、さまざまな形式が使われています。中でも特に、多肢選択式テストは、採点の容易さや信頼性の高さから国内外における主要なテストで採用されており、英検やTOEICなどがその例として挙げられます。多肢選択式テストは複数の選択肢の中から正答を選ぶもので、その多くは二つの正答肢に三つの錯乱肢(誤答)を加えた形式(四択問題)となっています。しかし、四択が他の選択肢数(二択や三択など)に比べて優れていると結論づける明確な根拠はありません。そこで、今回の研究では選択肢の数を比較し、選択肢数の違いがテストの精度や信頼性にどのような影響を与えるかを明らかにしようと考えました。

選択肢の数を減らして音声提示  
英語学習を根幹から変える可能性も

研究の出発点として、三つの錯乱肢の魅力(どれが受験者を引き付けるか、またはそれは熟練度によって異なるか)を検証し、特徴を明らかにします。選択肢数の研究には、100年以上の歴史がありますが、そのほとんどが心理系や医学系のテストで



「外国語学習に成功するには大量のインプットが必要」と語る飯村先生。授業では環境問題などさまざまなテーマで比較的易しい英文を多読し、音声ソフトを駆使した精聴とディスカッションで総合的に英語力を鍛えます。

占められており、言語テストでは検証されていません。最近になってようやく語彙テストや読解テストにおいては三択と四択で、難易度や信頼性、弁別力に関してほぼ差がないという研究結果が発表されました。しかしリスニングテストではまだ検証されておらず、研究の必要性があると考えました。選択肢の「数」に加えて、リスニングテストでは選択肢の提示方法も大きな問題です。リスニングですから、選択肢も音声で提示すべきだと考えています。しかし以前、私が行った研究では、四つの選択肢を全て聞くのは受験者にとって負担が大きいが分かりました。そこで、今回の研究から三択あるいは二択の有効性が証明できれば、選択肢を音声提示できる可能性が出てきます。そうすると「音声を聞かずとも、選択肢さえ読めば解答できる」といった受験テクニックが通用しない、妥当性の高いリスニングテストの開発ができるかと期待しています。